

風土記の丘の花だより²¹⁹

今、そしてこれから見られる植物(2024年1月20日)

少し前の出勤時、大池に氷が張っていました。1月20日は二十四節気の「大寒」、寒いはずですね。でも、シュンランの株を覗いてみたら、つぼみが少し顔を出していましたよ。それから、ふきのとうも出てきました。少し気が早いですが、季節は春に向かっていっているのでしょうか。



修復古墳の西側の梅園の紅梅が咲き出しました。まだまだ一分咲きどころか、五厘咲き程度ですが、何となく嬉しくなってきました。白梅の方はもう少しかかりそうです。万葉植物園では(1月17日現在)白梅がたった1輪だけ咲いていました。(写真)「梅一輪、一輪ほどの暖かさ」服部嵐雪(らんせつ)の俳句ですが、まさに「梅一輪」ですね。これをご覧になる頃にはもう少し咲いていることでしょう。



花の少ないこんな季節は、これまで木の実や枯れ葉、冬芽などと並んで、シダもいくつか紹介してきました。今回は2種紹介します。まず一つ目は、5、60センチもある大きな葉のシダ、その名もオオイタチシダです。写真では上が葉の付け根、下が先ですが、付け根の葉の一番下(写真では上)が大きく長く伸びているのが特徴です。(赤い矢印の部分です)といっても、シダは花もなく、実もありませんから、どれも同じに見えるかも知れませんね。興味ある方だけ探してみてください。



2つめはマツバランです。ランと付きますがシダです。シダなのですが、はっきりした根がなく、ちょっと変わり者のシダと言えるかも知れません。昔から園芸植物として愛好家も多く、そこから野外に広がった株も多いと考えられています。これは万葉植物園のモミジの丘の中にある大きなエノキの切り株に生えています。イノシシに荒らされながらも細々と生きています。あと一カ所は園路の桜の根元ですが、詳しく申し上げることは控えます。珍しい植物なので、大切に見守りたいですね。



修復古墳の下のポプラが葉を落とし、ヤドリギがよく見えるようになりました。多分、毎年紹介していますが、毎年「あの丸いものは何ですか」と尋ねられます。「普通の草木は土に生えますが、あれは土ではなく木に生える木で、ヤドリギと言います」とその都度説明しています。安藤塚のエノキにも付いていましたが、去年枯れてしまいました。園路沿いでもいくつか見られます。 松下